

(10) 四 国



四国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- 個人消費はこのところ持ち直している。
- 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

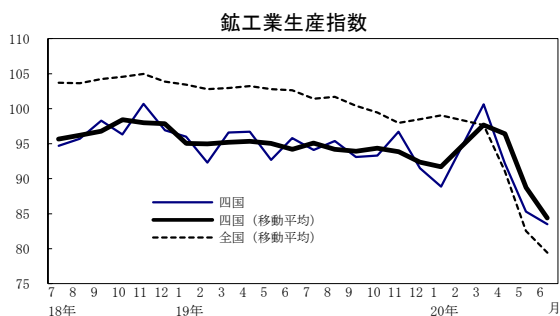
前回からの主要変更点

	前回 (令和2年5月)	今回 (令和2年9月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	下げ止まりつつある	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は下げ止まりつつある。

4-6月期には、化学・石油石炭製品は、環式中間物等の生産が減少したことにより、減少した。食料品は、減少した。電気機械は、減少した。汎用・生産用機械は、汎用機械器具部品等の生産が減少したことにより、減少した。輸送機械は、車体・自動車部品等の生産が減少したことにより、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
化学・石油石炭	22.1	1.5	▲7.1	▲24.4	▲5.4	1.5
食料品	13.8	1.5	▲6.7	▲5.6	▲5.5	▲2.6
電気機械	12.8	▲0.1	▲1.4	4.7	▲5.8	▲13.5
汎用・生産用機械	11.3	1.3	▲13.7	2.3	▲11.6	▲0.5
輸送機械	7.9	▲9.8	▲20.2	▲20.6	▲8.6	4.9
鉱工業	100.0	▲0.8	▲8.1	▲8.3	▲7.5	▲2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4-6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。  
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

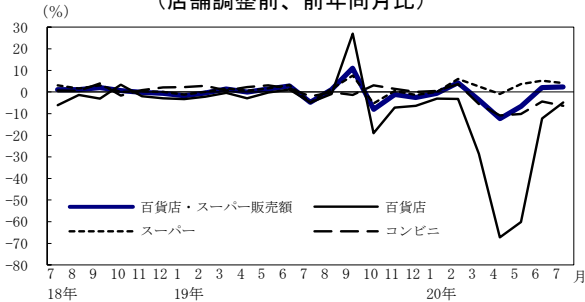
4月は前月比4.8%減、5月は同3.0%増、6月は同8.0%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4、5月は、緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。6月は、衣料品等が減少し、前年を下回ったが、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、減少幅は縮小している。7月は前年同月比4.8%減となった。

スーパーは、4-6月期は、飲食料品等が増加したことにより、前年を上回った。7月は前年同月比4.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	▲2.2	▲4.8	3.0	8.0	—
百貨店・スーパー(*2)	▲5.5	▲12.3	▲6.6	2.0	2.4
百貨店(*2)	▲45.5	▲67.2	▲60.1	▲12.3	▲4.8
スーパー(*2)	2.7	▲1.0	3.7	5.2	4.1
コンビニ(*2)	▲8.5	▲10.8	▲10.1	▲4.4	▲6.4
乗用車(*3)	▲31.8	▲31.4	▲48.7	▲16.4	▲11.7
(季節調整値)(*3)	▲14.1	▲11.7	▲23.2	46.7	9.4

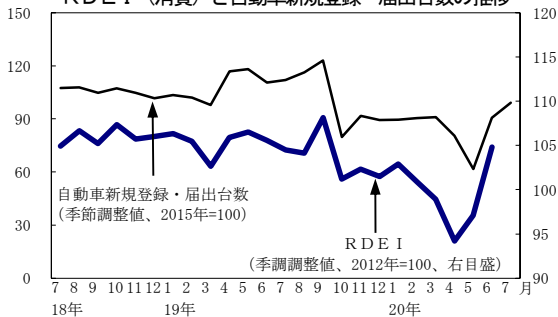
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2020年7月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

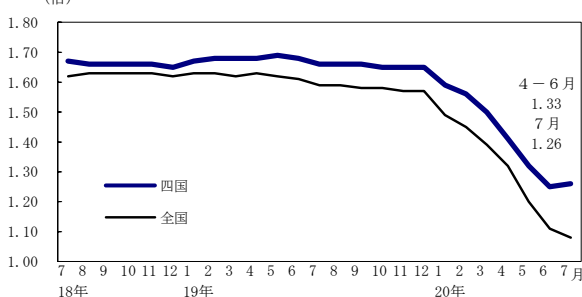


## 3. 雇用情勢

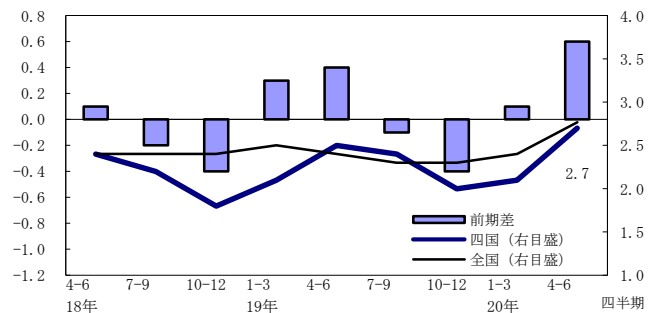
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

10. 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・国や自治体の旅行喚起策が相応の成果を出している(観光型旅館)。 ・緊急事態宣言が発令され、休業要請等による落ち込みが大きかった時期よりは少しだけ良い状態ではある。しかし、新型コロナウイルス感染症の余波が継続しており、客の不要不急な外出が制限されていることで、レジャー産業を営んでいる会社にとっては厳しい状況が続いている(商店街)。 ・3か月前の4月よりはまだまだしではあるが、6月の特別定額給付金の給付後のような状況ではなく、新型コロナウイルスの感染者が増加に転じた7月中旬頃からは再び減少傾向となった(コンビニ)。
		×	・Go To Travelキャンペーンの開始や人の動きの活発化等で業務用食品、土産、小売などは持ち直しがみられるが、自動車や住宅等の工業製品向けは低調な状態が続いている(化学工業)。 ・外食向けの製品の受注量がやや回復基調になってきている(食料品製造業)。 ・卸売価格は、業務用品目が一時的に回復したものの直近の新型コロナウイルスの感染拡大により需要が低下しており、再び厳しい価格となっている。また、花も相変わらず厳しい販売が続いている。一方、一般野菜は比較的安定した取引となっている(農林水産業)。 ・新型コロナウイルスの影響により、受注がダウンしている。新規住宅着工予測も前年比20%弱ダウンの予想が出ている(木材木製品製造業)。
			・ホテルやトラベル関係、医療系(特に医療事務)の新卒者向けの求人がかなり減っている。3月頃の求人についても取り下げる企業も数社あり、求職者に対して求人数が不足している状況である(民間職業紹介機関)。 ・新型コロナウイルス感染者の増加に伴い派遣に対する求人が減っている(人材派遣会社)。
	雇用 関連	×	・来客数や売上共に回復の兆しがみられるものの、県内感染者の再発生など第2波に対する懸念もあり安心はできない(百貨店)。 ・やはり受注が伸びない(建設業)。
	その他の特徴 コメント		
先行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスが終息し、生活様式が以前の状態に戻らない限り、今の状況が継続すると考えている(スーパー)。 ・今は新型コロナウイルスの影響で店に来られなかった客が動いている。7月の連休とお盆休みで感染者数が増加するとまた来客数は減少するのではないかと考える(美容室)。
		×	・このまま悪い状態が続くと予想される(輸送業)。 ・船舶は年内受注は確保されているが、来年度以降は不明である(鉄鋼業)。
	企業 動向 関連		
	雇用 関連		・新型コロナウイルスの第2波が更に拡大し、秋に向けて準備中のイベントも開催が危ぶまれる状況である(新聞社[求人広告])。
	その他の特徴 コメント		・新型コロナウイルスの感染者数がまた増加傾向となり、販売促進広告の復活傾向がストップした。年内のイベント中止や販売促進広告の自粛が継続される見込みであるため、今後も厳しい状況が予想される(広告代理店)。 ・新型コロナウイルスへの対応に慎重な企業が多く、すぐに採用を増やす企業が増えてくるとは考えにくい(求人情報誌製作会社)。

(D I) 現状・先行き判断D I (四国)の推移(季節調整値)

